

# 磐城大衆新聞

毎月二回一日十五日  
定価 一部 十銭  
廣告料 (場所指定十銭増)  
発行兼編輯印刷人  
長谷川兵衛  
福島縣平町研町大磐地  
發行所 磐城大衆新聞社

## 關内藥局

度量衡・計量器  
体温器・寒暖計  
平町四  
電話四〇番

### 亂賣か不買同盟か?

#### 有名賣藥本舖を叩け

賣藥亂賣問題に就ては吾々が屢い。こうした事實より今日の  
々これを論じ来たつた處であつて亂賣現象を見る時に吾々はこれ  
依然今や到る處此の傾向が擴大を決して各販賣業者の自衛的  
激化しつゝあると云ふ事は業界由競争によるものとみれば看過  
の爲め誠に困つた事である。し難いのである。これを要する  
實際今にして何んぞかこれが根に商品なるものが一定の定價を  
本的對策を講ずるに非ざれば保持する事出来なくなつた時  
局これは販賣業者自衛無意味なは己にその商品の市場價值なる  
る共倒れの運命に遭遇するは必もの没落を意味するものであつ  
定、實にこれははくはく事と云て既製有名賣藥なるものが今日  
ふべきである。吾々が常に主張亂賣の憂きものを見る言ふのも  
する處結局これは販賣業者自衛蓋し其れ自らの商品價値の低下  
が覺醒せぬ限り如何なる方法を證明するものと言はざるを得  
以てしても大勢は益々此の不幸なものである。即ち之を言ひ換  
なる状態を昇進せしめるのみ。たなら今日の一般社會狀態は最  
何時の間になつたか此の儘で早賣藥の不當に高價なる販賣を  
は到底販賣價格の統制などは思許さなくなつたと看る可きであ  
ひも及ぶ事と重ねて業者諸君らう。即ち過去餘りに跳梁跋扈  
の三思再考を煩はす次第である。吾々を悉くして来た有名賣藥  
之れを要するに吾々の持論とする社會的大鐵錘に他ならぬの  
處、亂賣とは儲なしに品物をである。斯く考へ來たる時に今  
賣る事。換をして商内をする日の一般亂賣問題なるものは其  
事とを云ふのだ。商人として何の賣決して小販販賣業者には非  
が故にそんなくだらぬ無理を敢すして、即ちこれが禍根は奪  
てする必要があらぬか、これは大今や亂賣せざるを得ない處の  
いに吟味して見る必要がある。謂有名賣藥それ自體の中に在り  
大体今日現に亂賣されつゝある從つてこれが發賣本舖こそその  
處の商品を見るに例外なしにを總てを負ふ可き當然の責任者と  
の總てが所謂有名賣藥なる基だ言はざるを得ないのである。  
定價の高いもの許りがある。其既製有名賣藥の發賣本舖よ、馬  
が證據には安い定價の今日代表鹿げた誇大廣告や宣傳費の濫費  
的なものである保險業を見よ、をやめて少しは眞面目な經營に  
日本國中未だ一軒のこれが亂賣返れ、自分で發賣する品もの、  
するものあるを聞かないではな値を下げる、一般小販業者に亂

### 四倉町萬年瓦工業株式會社

#### 社長 江口清氏的美學

萬年瓦社社長江口清氏は村民に多り庶務主任の重職にある長谷川  
大の同情を注ぎ擔當甘架を寄附氏は萬年瓦の製産に對して献身  
して村民より甚大なる感謝を捧げる努力をされて居る。

### 更生途上を躍進する

#### 鹿島村の新局面

#### 志賀村長の献身的努力に 依り十余年の難問題解決

從來本郡に於ける町村中惠ま日は伊藤知事も親しく臨席する  
鹿島村として又難治村として事になつた。  
又學校新築に對しては助役佐藤善太氏、収入役三島一郎氏  
藤善太氏、収入役三島一郎氏  
警中十四回出の勞も多とせね  
の痛として村民大衆を苦しめたばならぬ。其他建設委員として  
の中央字走館に工費貳萬圓を投佐藤米治氏、學務委員として佐  
の竣工を見るに至つた。其の間に原義雄氏、新妻義夫氏等が献身  
於ける志賀村長の人知れぬ苦勞見るに至つた。更に感すべきは  
並大抵のものではなかつた。同村の警察官として村民より長  
又同村は從來惡道路にして交敬せらるゝ井上清巡査も極力應  
通往來に不便を痛感してやま援した。次に設計者は長谷川清治氏に  
なかつたが近來村民協力一致の工事請負者は長谷川清治氏にし  
なかつたが一路小名濱に通ずる坦て兩氏とも日夜肝膽を砕いて盡  
力した。  
此の新築モダン校舎の主とし  
て村民子弟の教育學業に當る小  
泉義郎校長の惠まれたる境遇は  
尙ほ新築學校落成式舉行の當

### 論見上げた

#### 村醫者に藥劑師

(東京(憲陽生))

多幸といはねばならぬ。  
は調劑に限る、二錢五厘か三錢  
のもとで結構二十錢、三十錢取  
れるんだから」これが今日の藥  
劑師諸君の御説である、これも  
又見上げたもの。  
今や醫藥分業問題を廻つて大  
騒動、それにつけても有難い事  
だ、我々にはこういふ御心切は  
お醫者様と藥劑師様とがついて  
いてくれるのだ、これではお互  
に病ますにはめられぬエーと  
アこういふ譯です。

### 一團融合

#### 鹿島村歌

一、東しや江名濱、湯本は西よ  
南小名濱、北平  
二、一團融合で進ませう  
字は十二で名はこそ異へ  
同じ心は村のため  
老も若も力のかぎり  
男も女も手をとりて  
三、國のためなら水火を辭せぬ  
此の腕、此の脚、此の心  
サーアサ乗り切れ不況の波  
よ、村は平和なオオガ村  
響く太鼓は旭日昇天  
一團融合は鐘の音か  
朝は早くから夜は遅くまで  
セッセとかせぐも誰か爲  
福島縣石城郡鹿島村役場  
高級食堂(レストラン)  
金春 平田町(電六六六)

### 綱領

一、神を敬し祖先を崇め一家和  
合し隣保相助け以て一村平和  
に反せざること  
二、自己農村を認識し農民性を  
増長し都會氣風に稽まざる事  
三、役場、學校、農會、産業組合  
は連絡を取り各種業務に基き  
圓滑なる統制に努力すること  
四、家業に精を出し統制化に従  
ひ質實を高め一家維持挽回に  
努むること  
五、家計簿を備へ收支記帳を明  
にし生活改善の資に供する事  
六、日常生活を簡しに贅費を省  
き勤儉以て貯蓄を勵行する事  
七、小學校教育と質實なる郷土  
教育に力を注ぐこと  
八、人の爲めには虚偽なく真心  
を込めて當ること  
九、時間は素に尊重し特に集合

### 大衆片々

結果するは今、目醒めよ起て  
賣藥業者諸氏よ  
亂賣をする仲間の店先きへ人  
糞の贈りもの、亂賣病の妙藥  
にはアンモニアが効くぞうな  
扱て亂賣恐怖症に妙藥はない  
ものか  
立派な洋服を着て自動車では  
かり往診に出かける様なお醫  
者様になりたい、立派な店を  
店員を大勢使ふ様な藥局を経  
營し度い  
賣藥亂賣は今や全市到る處の  
大問題、燎原の火の如き猛烈  
な勢ひをもつてそれからそれ  
い擴大しつゝある  
奇怪買收費三百圓の行くへめ  
真相を糾弾せん、後日其の  
一町村役場がある  
役場にあつては村長を筆頭に  
吏員小使に至る迄で晝夜の別  
暴言を演じ居るとか、果して  
事實か  
村當局者の責任感念と村の刷  
新とか、全ての點に於て疑わ  
しいものがある  
仄聞する處に依ると近町の或  
る料理亭に於て吏員連が婦女  
子と手を交はせ遊せしめかもし  
最近各町村に於ける公金費消  
問題頻りに惹起せんとし町村理  
事代表者は全てに注意をされ  
んか。

活舞臺に健闘する人々

山崎佐市郎氏

好間軌道株式會社の支配人と  
して又自動車協會石城支部幹事  
と名がある山崎氏は他方内郷村  
々々會議員として學務委員として  
村政に奉仕しつゝある。

氏は日露戰役の老勇士にて軍  
功赫赫の帶勳者である。  
氏は居村大衆よりの信望厚く  
將來の村長として待望せらるゝ  
徳望家である。

植田町 北郷繁七氏

北郷氏の主宰する植田運送合  
資會社は創立昭和二年四月十六  
日にして地方物産運送業のため  
に努力し來つた業績顯著である  
同氏は植田町會議員として  
町政に献身し又福島縣自動車協  
會評議員として斯界のために盡  
力されてゐる。

植田町 渡邊徳之助氏

渡邊氏は元町議として町政に  
致したる業績甚大である。氏は  
功成り名遂げたる地方の老紳士  
にして社總代を始め町内の元老  
格にして家作、土地の大分限者  
である。此氏は巨額を投じて  
祖先の墓を建設した、其他社會  
事業にも奉仕しつゝある。

植田町 大野武春氏

大野氏は明治三十一年四月廿  
七日生れの新進實業家にして本  
縣西白河郡矢吹町の生れ大正二  
年郷里小學校卒業、大正七年十  
二月歩兵第六十五聯隊に入營、  
同八年四月若松衛戍病院に編入  
同九年十一月二十五日歸隊除隊  
それより斷然意を決して大正十  
年十二月十五日植田町に牛乳搾  
取業を開始し今や郡南第一の斯

平町 諸橋久太郎氏

氏は本縣實業界の一大巨柱に  
して警中卒業後東都に遊び早稲  
田大學の優秀なる成績を以つて  
卒業東北第一流大商店釜屋商店  
の大帳場より先般庶民金融機關  
たる平庶民金庫の頭となつた。  
一般中小商工業者に対する金融業  
となつた氏が徹底した平民主義  
的態度は大衆の信敬を博し好評  
嘖々である。氏は推されて現に  
福島農工銀行の重役、片倉警城  
製糸株式會社取締役、植田水力  
電氣株式會社取締役、其の他各  
會社の重任にあり、氏の前途尙  
ほ春秋に富み其敏腕を發揮する  
に至つては將來の發展刮目して  
見る可きである。

平町 諸橋元三郎氏

諸橋久太郎氏の弟たる資性  
温厚篤實高雅なる人格者元三郎  
氏は警中十六回卒業後、東都の  
早稲田大學出身の秀才である。  
氏は又た理財的透徹したる識眼  
と卓越せる手腕とは常に進取的  
營業方針と相俟つて業績を擧げ  
てゐる。内務あつては大藏の  
職を司り金庫の鍵を握り専心家  
業を擧げ幾多の店員を指揮督勵  
し家運の發展に全力を傾注して  
居る。氏の趣味として古今東西  
の書を讀破し凡るの新刊名著を研  
究或いは性名學の研究に専心さ  
れて居る。

平町 關内榮助氏

氏は平町の産、警中卒業後東  
京藥學校を抜擢の成績を以つて  
卒業、氏は藥劑師となり歸郷大  
店舖の主人公となりして氏は  
獨立自營の責任を以つて不眠不  
寐

休火の様な意氣を以つて活躍し  
たのである。そして着々として  
事業の基礎を固め遂に今日の隆  
運を見るに至つたのである。

平町 柴田徳二氏

氏は明治四十四年警城中學校  
を優秀の成績を以て卒業直ちに  
東京高等商業學校一ツ橋商大の  
出身、修學後郷土の人となり大  
正八年現在の場所書籍文具大  
店を開き今日の店務の發展と業  
績の大成を擧げ既に實業界の施  
然頭角を表はして居る。氏は過  
去幼年時代は家庭に兄妹なく睦  
み會ふ樂みを知らず淋しき生立  
を經過し只母の慈愛に愛着して  
小供ながらも母に奉養する事と  
家運の發展に責任の重且つ大な  
るを悟る時あつたと聞く。又  
少青年時代の面影は氏の性格の  
一面である、氏は前推され  
平青年團長に擧げられ専ら青  
年指導の爲めに貢献された熱血  
兒である。

平町 萩原義雄氏

氏は明治廿二年長野縣南佐久  
間郡内山村生れ、郷里の中學校  
を卒業後東京醫科專門學校  
出身四十年十月第一回卒業生に  
して抜擢の成績を以つて卒業、  
後淺草區醫科醫院長の職にあつ  
て内外信望厚く氏が常に得意と  
する所は學理の研究實地の觀察  
に怠なく、大正元年十月平町に  
開業し多年  
研究の學理  
と練磨の技  
術を以つて  
患者に接し  
修め培根塾の寮長なり、明治十  
八年四月小學校校長となり、教  
養員に推されて當選爾來再選  
に在り二十有餘年、同三十八年助  
役に擧げられ四十年十月郡會議員  
となり、同議長に推され四十二年  
農事講習生同窓會幹事を囑託さ  
る大正四年消防組織に任命大正  
八年鹿島村長に擧げられ、大正



鹿島村郵便局長 鈴木一男氏

縮役、其の他各銀行、會社重役  
等の榮職にある。

泉村 小林醫院

氏は本郡泉村の出身にして警  
中を出て長崎醫學專門學校入り  
後北海道の天地に於て獨立を以  
て醫院開業して數年、一般診療  
に從事して聲望隆々患者踵を接  
するの盛況に達し居つたと聞く  
先般郷里泉村に歸り、前會田醫  
院の跡に開業日は尙を淺きも懇  
切なる待遇と卓抜なる技術とは  
忽ち地方民の信用を博し家運  
を爲すの盛況を呈して居る。  
氏は現在植田水力電氣株式會社  
の庶務主任の重職にある小林讓  
三郎氏の令弟である。

鹿島村郵便局長 鈴木一男氏

鹿島村郵便局長鈴木氏は警中出  
身の秀才にして明快なる頭腦と  
牙えたる手腕の持主にして繁雜  
多忙なる郵便事務に精進せる快  
腕の事務家である。同村にあつ  
ては現村會議員、學務委員其他  
各名譽職に推されて村治刷新の  
爲め献身努力しつゝある。尙今  
般落成された校舎の新築工事監  
督委員重任であつた。

鹿島村 鈴木大藏氏

氏は石城郡鹿島村の人、舊家に  
して素封家である。明治十三年  
舊平藩主安藤對馬守の傳師儒室  
直養先生の間に入り漢文經書を  
修め培根塾の寮長なり、明治十  
八年四月小學校校長となり、教  
養員に推されて當選爾來再選  
に在り二十有餘年、同三十八年助  
役に擧げられ四十年十月郡會議員  
となり、同議長に推され四十二年  
農事講習生同窓會幹事を囑託さ  
る大正四年消防組織に任命大正  
八年鹿島村長に擧げられ、大正

十年病氣の爲め解職す、氏は多  
職を洞察して倦怠するなく枯槁  
年一身を公職に捧げ能く其地位  
と天職とを顧み熱誠事に當り地  
方文化に貢献せる人格者であつ  
た。

鹿島村 三島五郎氏

素封家で篤行家である三島五郎  
氏は明治二年九月廿二日日本郡鹿  
島村に生る。家は世々代々の豪  
農であり、舊家にして資産は村  
内一流であると云ふ、又一舉一  
動地方財界を動かすの勢を以つ  
て一意専心家業を修め敢て又他  
を顧みず、資性素より聰明にし  
熱心亦人に對し胸中非常の大  
あり、氏は常に注意周到線密高  
治の發展に協力献身しつゝある

大場醫院

院長 大場仙吉

和久井屋漆店

平町一丁目  
電話四〇五

植田町 野村醫院

院長 野村智選

植田町 五十嵐醫院

院長 五十嵐

植田町 若松屋旅館

電話五七三

川前助役 永山忠三

消防組頭

植田町 若松屋旅館

電話五七三

平町 (イワキ共濟附近)

長谷川辰之助

植田町 藝妓屋組合

植田町 (内科外科一般)

野村醫院

院長 野村智選

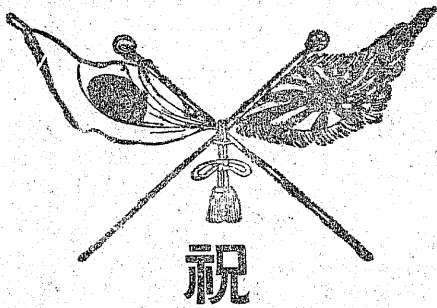
勿來町 横山太一

内郷村 五十嵐醫院

江尻二二三男

佐藤米治

鈴木一男



鹿島村小學校落成式

村長	志賀直哉
助役	佐藤善太
収入役	三島五一郎
小學校長	小泉義郎
鹿島村 巡查	井上清
建築主任	大井勇
土木建築 請負業	長谷川清治

鹿島信用購買組合主任	江尻二二三男
消防組頭	佐藤米治
郵便局長	鈴木一男
村會議員	江尻
村會議員	鶴沼忠美
同	四家重雄
同	高萩民雄
同	赤坂稔
同	佐原良近
同	鈴木傳
同	波立忠作
同	箱崎弘之
鹿島村役場吏員	一同
鹿島小學校職員	一同